まつのき保育園

園だより



2026. ９月号

Ｅﾒｰﾙ matsunoki_mori@beach.ocn.ne.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ http://minnanomori.jp

「ままならない」ことを救う「分かる」の一言

先日、兵庫で行われた全国保育団体合同研究集会（通称：合研）へ参加してきました。全国から3日間で1万人近い人が集い、保育者も保護者も研究者もみんなで、より良い保育、平和な社会を目指して講演を聴いたり、仲間と話し合いをしたりしました。全体会の司会を保護者歴10年以上の3人の子育てをしているお母さんがしており、保護者も活躍し、一緒に学びを深めていることに感動しました。

１日目の「保育・子育てフォーラム」では、研究者の方たちが保育を取り巻く現状について、お話をしてくれました。私が一番心に残っているのは白梅学園大学の五十嵐先生がお話してくれた「保育・子育てが、ままならなくなっている」という言葉でした。

「ままならない」とは、自分の思い通りに物事が進まない、計画通りにいかない状態を表す言葉で、何かをしたくてもできない、思うように行動できない状況という意味も含まれます。

五十嵐先生は、タイパ・コスパが優先され、頭で分かった気になって物事を進めていく時代に、人と生きること自体が「ままならない」ことであると言っていました。

特に子どもは予想とは違う、思っていたのとは違う動きで、常に大人をままならなくさせてくれます。例えば園の玄関で「帰りたくない」と言って大きな声で泣いたり逃げたりすること、家に帰ってご飯を食べている途中で急に席を立ち遊び出すこと…等、困る場面は日常にいくつも転がっています。

すると、私たちはすぐに「どうしたら？」と答えを求め、早く解決したくなります。そこで、スマホ一つで解決方法を調べ、AIに自分の話を聞いてもらい素敵な言葉をもらって、自分を納めようとします。

しかし、五十嵐先生は、ある園のクラス懇談会で一人のお母さんが自分の悩みを話し、周りの保護者から「分かる」「うちも一緒」と言ってもらえた時に、「自分は一人じゃない」と張りつめていたものが、解け涙する場面があったお話をしてくれました。

問題は解決していません。子どもはきっと、いつもと同じように変わらず、大人をままならなくさせてくれます。それでも、誰かが自分の言葉・感情を受け取ってくれることで安心したということです。そうした大人の安心感が子どもに伝わり、心に生まれた余白で、少しだけ親子が穏やかな時間を過ごすことができたら幸せなことだと思います。

私たちの園では、そうした大人同士の温かい関わりが広がっていくことを期待して保護者会活動を積極的に行っています。今週は、まつのき祭り（夏祭り）も予定しています。実行委員会の皆さんが準備を進めてくれています。子どもたちと一緒に、みんなで楽しみましょう。よろしくお願いします。

「平和」について考え、思いを発信する



玄関に皆さんから多くの「幸せに感じること」を書いていただきました。「おいしいもの食べた時」「友だちと一緒にあそんだ時」等、皆さんが日頃感じている幸せを拝見し、心が温まりました。

前述の合研で、横浜市立大学名誉教授の中西先生や、映画監督・ジャーナリストの三上知恵氏のお話を聞きました。私たちは「鈍感力」（気持ちが沈まないために、不安なことを心から遠ざける力）や、「正常性バイアス」（自分たちは大丈夫だろうと思う事）によって、戦争は起きない・起きても自分たちに被害はないだろうと思っています。

しかし両氏は、世界情勢から「日本が戦場」となって戦争が起こる可能性があり、いま着実に法律や道路整備等の国土強靭化等の準備が進められ、私たちや私たちの子どもたちが戦地に立つ危険があるというお話をしていました。

私たちの憲法は国民主権です。国が戦地に行くよう命じても「行かない。」と主張する権利があり、罰せられることは“まだ”ありません。日本中で、戦争の語り部が減る中、戦争の悲惨さや怖さを後世に継承し新たな語り部となっている若い世代の人たちが出てきているそうです。

私もお腹が空いたら食べる、疲れたら眠る等の当たり前にできることを平和だと感じ生活すると共に、ニュース等から世界の動きを知り、平和について考え、思いを発信していきたいと思いました。